



MIYAGI CHILDREN'S HOSPITAL

宮城県立こども病院

広報紙

<http://www.miyagi-children.or.jp/>



発行：地方独立行政法人 宮城県立こども病院 〒989-3126 宮城県仙台市青葉区落合四丁目3-17 TEL:022-391-5111 FAX:022-391-5118

「いのちの輝き巻頭言～31回の思い出～」

院長 林 富



私は平成20年4月、東北大学病院から宮城県立こども病院に赴任し、最初に16号巻頭言「新院長の抱負と決意」を書かせていただきました。以来、今回の46号が31回目の巻頭言になります。

平成20年6月14日の岩手・宮城内陸地震を経験し、17号で「大規模災害への備えを急ぐ必要がある」と記載しましたが、東日本大震災の備えは不十分でした。自家発電が働き続け何とか医療を継続することができましたが（平成23年7月28号「東日本大震災と小児医療」）、大いに反省し自家発電設備の強化と多様化、衛星携帯電話による情報ネットワークや大型ドクターカーなどを整備しました（43号「大震災から5年」）。

私は敷地内の十月桜を眺めながら出勤するのが楽しみです。生命力が強く10月に咲き始め雪が積っても咲き続け4月に満開となります。入院されていたご子息（S君）の思い出にご家族が植樹されたものです（27号「十月桜に想う」）。この9年で大きく成長しました。

古川拓画伯の『子規の風景・「はて知らずの記」をたどる』の「はて知らずの記」を取り寄せ読んでみました。明治26年8月子規は広瀬川沿いに作並に向かい、「広瀬村の橋畔で昼飯を食べる。愛子村ほりには沢山の撫子が咲いている」と記し「児もをらす愛子の村の野なでしこ」と詠んでいます（32号）。124年前に子規が歩いた愛子村にこども病院が建ち多くの子ども達が治療を受けています。

まほうの広場コンサートを特に一つ挙げるとすれば、平成25年7月に開催された第87回目の「大野和士のこころふれあいコンサート」です。フランスリヨン歌劇場主席指揮者の大野さんが解説を交えてアニメ9曲をピアノ演奏し、石巻市出身のテノール歌手渡辺公威さんら声楽家4人が圧倒的な声量で子ども達ご家族を楽しませ、元気づけて下さいました（39号）。

笑顔で前向き、マクドナルド・ハウス、ウェリントンからの千羽鶴、レジリエンス、ボランティアさん、クラウンさん、拓桃統合など思い出すことは数々あるのですが、字数が一杯になりました。そして、この46号原稿が私の「いのちの輝き」最後の巻頭言です。有り難うございました。

病院理念

- 私たちは、こどもの権利を尊重し、こどもの成長を育む心の通った医療・療育を行います。
- 私たちは、高度で専門的な知識と技術に支えられた、良質で安全な医療・療育を行います。

病院の基本方針

- ①チーム医療、成育医療及び総合的な療育プログラムを実践し、温かい医療・療育を行います。
- ②こどもの成長・発達に応じたきめ細やかな医療・療育を行い、自立の心を育みます。
- ③一人ひとりの成長・発達に寄り添い、安全で潤いのある療養・療育環境を整えます。
- ④小児医療と療育の中核施設として、地域の関係機関と連携し、患者や家族の地域での生活を支えます。
- ⑤こどもや家族と診療・療育内容の情報を共有し、情報公開に努めます。
- ⑥自己評価を行い、外部評価を尊重するとともに、業務の改善や効率化を図り、健全経営に努めます。
- ⑦臨床研究及び人材の育成を推進し、医療・療育水準の向上に貢献します。
- ⑧職員の就労環境を整備するとともに、職員の知識・技術の習得を支援します。

Contents

各診療科アピールポイント	2
勤務を振り返って	3
部門紹介	3
地域医療連携室だより	4
拓桃園紹介	5
ボランティア紹介	6
行事予定	6
編集後記	6



日本医療機能評価機構
認定第JC193号

当院は日本医療機能評価機構の認定病院です。

各診療科アピールポイント

小児の血液難病に対する 造血細胞移植治療



副院長兼血液腫瘍科 科長 今泉 益栄

1980年代以後、難治性血液疾患の治療は造血幹細胞移植（HSCT, hematopoietic stem cell transplantation）の普及により大きく変貌しました。特に日本骨髄バンク（1991年～）と臍帯血バンク（1995年～）設立後バンクドナーからの移植例数は増加し、骨髄バンク2万例（2016年10月）と臍帯血バンク1万例（2013年8月）を達成し、最近では毎月約200名がバンク移植を受けています。

血液腫瘍科はこども病院で診療を開始した2004年に血縁者ドナーから骨髄移植の第一例を行い、その後骨髄バンクと臍帯血バンクの施設認定を取得し、2016年12月には通算移植例64例となりました（図1）。移植時の患者年齢は約2/3が10歳以下で、乳児期の移植が約1割にもなります（図2）。これは遺伝性の造血不全・免疫不全症や乳児白血病患者は乳児期に移植する必要があるためで、小児の難治性血液疾患を診ることも病院の特徴です。

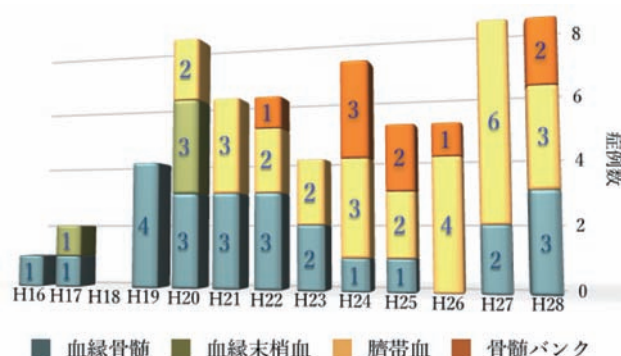


図1. こども病院における造血細胞移植の年間件数

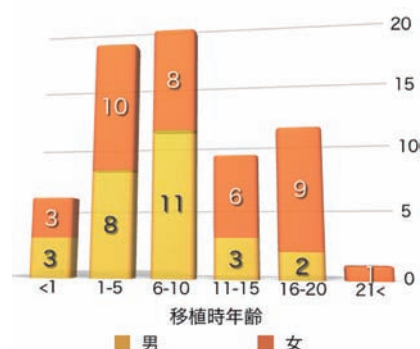


図2. こども病院の移植時患者年齢

東京ドームで始球式をする少年（図3）はこども病院で再生不良性貧血と診断され、5歳の時に骨髄バンクドナーから移植を受けた患者です。移植により病気は治りましたが、その後に家族は東日本大震災で被災しました。様々な苦難を乗り越えて、今は「人の役に立つ仕事がしたい」と夢に向かって頑張っています。写真は読売巨人軍に招かれ阿部捕手のミットに見事なストライクを投げ込んだ時のものです。（日本骨髄バンクニュース vol.44）

HSCTは標準的治療法となりましたが、現在は移植後の晩期障害のリスクを如何に予防・軽減するかが大きな課題となっています。特に小児期に移植を受けた患者は病気の治療のみならず、後の成長と発達、就学・就職などが重要な課題となります。こども病院では晩期障害リスクが少ない移植前処置を導入し、HSCTフォローアップ外来を設置して移植患者の健康の維持・管理をサポートしています。



図3. 骨髄バンクニュース(vol.44)

勤務を振り返って



副院長兼看護部長 星野 悦子



2009年4月に看護部に勤務して8年が経ちました。入職当時は看護師数212名（育休5名）でしたが、拓桃医療療育センターが統合してベッド数も160床から241床となり、看護師数は303名（育休26名）になりました。

病院の理念のもとに、看護職員が一丸となって目標を目指すために、バランススコアカード（BSC）の4つの視点で目標管理を行い、看護部長は師長、副看護部長は主任看護師、師長は部署の看護師の面接を実施しています。目標を達成するため、キャリア開発システム委員会、看護研究審査委員会等、教育関連委員会の整備や認定看護師選考委員会、その他看護方式の変更に伴うワーキンググループの構築を行い、質の高い看護の実践に向けて活動してきました。

東日本大震災が発生し、暖房のない管理室に宿泊したことやコスチュームやリネン類を洗濯して乾燥したことや、おもちゃ図書館に臨時保育所を開設したこと等々、看護職員全員で頑張ったことを思い出します。

宮城県立こども病院で勤務した8年間は、めまぐるしい毎日でしたが充実していました。これまで、みなさまの協力のもと業務が遂行できたことに感謝しております。これからも看護師一人一人が生き生きと働き、充実した職場づくりをすることを祈念致しております。

部門紹介



栄養管理部

（技師長 日野 美代子）



後列左より 櫻井 管理栄養士、佐藤 管理栄養士、三浦 管理栄養士、四竈 管理栄養士
前列左より 日野 技師長、虻川 部門長、秋山 上席主任管理栄養士

栄養管理部は、虻川部門長の下、技師長（管理栄養士）1名、上席主任管理栄養士1名、管理栄養士4名、患者食受託業者職員23名の総勢29名で患者さんの栄養管理を担っています。業務内容は「食事療養業務」、「栄養相談業務」、「NST（栄養サポートチーム）」になります。特に、昨年度および今年度において取り組んだ内容について幾つかご紹介します。一つ目は、学童期の患者さんを対象に調理風景を見学することで病院食に関心を抱きひいては摂取量の増加を図ることを目的に「調理室見学ツアー」を行い、患者さん外、保護者等含め11名が参加しました。二つ目は血液腫瘍科で治療中の患者さんを対象におやつ必要性について「栄養ミニレクチャー＆簡単おやつクッキング」をイベント給食と称して行いました。最後に、昨年度の3月に移転統合した拓桃館3階入院の患者さんを対象に昼食を利用した「栄養ミニレクチャー＆バイキング給食」を行いました。何れも長期入院中の患者さんを対象に実施した、集団の栄養相談＆実地見学・実習・食事の内容で、入院生活のQOL向上に貢献できたと思います。今後も在院日数を考慮し計画的に取り組んでいきたいと考えています。

栄養ミニレクチャー
& バイキング給食



地域医療連携室だより

登録医の先生方へ（お知らせ）

地域医療研修会のご案内

臨床放射線病理カンファランス（CRPC）

当院診療部より2症例を呈示し、臨床・放射線・病理など様々な角度から診断・治療をじっくり検討します。当日で参加の先生方からの症例呈示も歓迎いたします。本カンファランスは、日本医師会生涯教育講座認定（1単位）認定見込みです。

第40回 平成29年 6月14日(水) 18:00～ 場所：宮城県立こども病院 本館1階 愛子ホール
第41回 平成29年 9月13日(水) 18:00～ 同上

第9回「七夕の集い」

本年も、研修会と交流会を兼ねた第9回「七夕の集い」を下記日程で開催予定です。詳細は、登録医や関係医療機関の先生方に後日ご案内いたします。是非、ご参加いただきますようお願い申し上げます。

宮城県立こども病院 第9回「七夕の集い」
開催日時 平成29年7月5日（水）19：00～21：00
場 所 江陽グランドホテル

上記の他、感染対策研修会、安全対策研修会等の開催を予定しております。詳細は、順次電子メールでご案内さしげるとともに、当院ホームページに掲示いたします。

短期入所サービス

対象

主に、肢体不自由児・重症心身障害児の方が対象です。

*自閉症や重度の知的障害の方は病棟の特性上受け入れが困難であるため、対象となる施設への申込をお願いいたします。

ご利用の際には市町村が発行する「障害福祉サービス受給者証」が必要です。

サービス内容

在宅の重度心身障害児の保護者（児童福祉法（昭和22年法律第164号）第6条に規程する保護者）が、様々な理由で障害者本人を介護することが一時的に困難になった場合にご利用いただけます。保護者の休養・ご家族の病気や冠婚葬祭などにご利用できます。

内容：食事・排泄・入浴（入浴日が該当する日）などの日常生活上の世話 健康チェック・経管栄養や導尿等の医療ケア

*医療行為・リハビリテーションは含まれません

*利用期間中に医療を必要とする場合は、保険診療に切り替えて医療行為をおこなうことになります。また、その際には、速やかに保護者に連絡させていただきます。

利用申し込み

地域医療連携室にご相談ください。

問合せ ➡ 体験入院（一泊程度） ➡ 申し込み ➡ 利用開始

宮城県立こども病院 地域医療連携室 室長 虻川 大樹

〒989-3126 仙台市青葉区落合四丁目3-17 TEL:022-391-5115(直通) FAX:022-391-5120(直通)

E-mail: tiiki@miyagi-children.or.jp

開室時間／月～金曜日（祝日、年末年始は除く）8:30～17:00

拓桃園紹介

医療ソーシャルワーカーについて



医療ソーシャルワーカー 佐藤 守
伊藤 春菜

こども病院は、児童福祉法に基づく医療型障害児入所施設「宮城県立拓桃園」が平成28年3月に開所し、小児・周産期の急性期から慢性期、リハビリテーション、在宅医療までを一貫して担う医療・福祉施設となりました。ご確認をお願い致します。

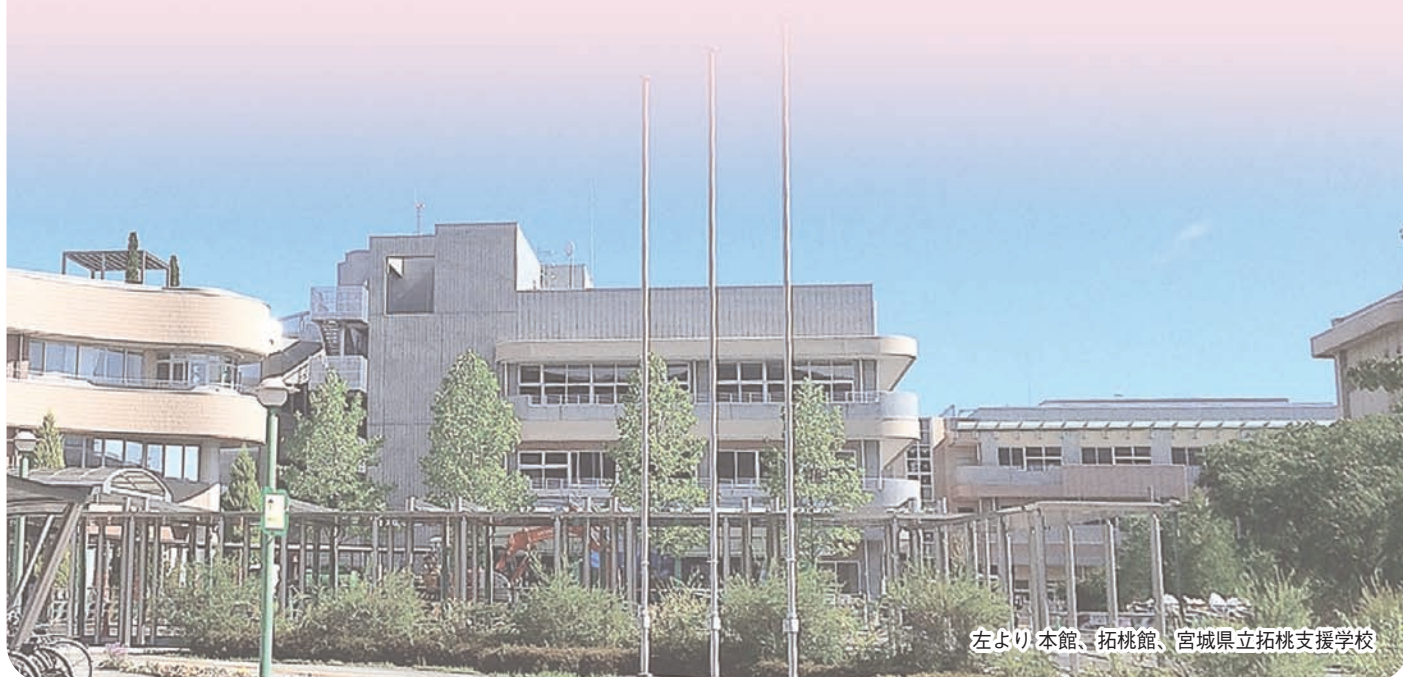
拓桃園担当の医療ソーシャルワーカー（MSW）は2名体制で配置されています。患者さん、ご家族に対して拓桃園の利用について契約書の取り交わしや入所中の様々な相談、退院支援等、外来の患者や外部の関係機関との連絡・調整等を拓桃園の窓口として担っております。

拓桃園の利用は基本的に患者さん一人での単独入所となっているため、入所中は患者さんご家族は離れて過ごすことになります。週末に外泊できるとはいえ、離れて過ごすことへの不安は大きく、医療ソーシャルワーカーの役割として、その不安が少しでも小さくなるように丁寧な初回面談を心がけ、入所後も安心して生活を続けることができ、療育サービスを受けることが保証されていることを伝えております。また、拓桃園の入所は一般の入院とは異なって児童相談所で「障害児施設給付費 障害児施設医療費」の支給申請が必要となりますので、手続き方法について詳しく順序立ててお伝えしております。

拓桃園ご利用中の患者さんの相談窓口として医療ソーシャルワーカーがいますが、何を相談したら良いのかと思われる方も多いと思います。漠然とした不安を抱えている方も多くおり、相談室へお越しになった方も何が課題なのか把握されていないこともあります。相談は何でも構いません。相談内容については、受診のことや入所のこと、地域のことなど、面談を通して何が課題かを共有していくことができればと思っております。



左より 佐藤 MSW、伊藤 MSW



左より 本館、拓桃園、宮城県立拓桃支援学校

ボランティア紹介

拓桃館3階病棟洗濯整理・玩具消毒

前田 純子、大瀧 ツネヨ、武藤 雅代

毎週水曜日午前の活動を終えて、拓桃館3階へ向かいます。

初めに、きれいに仕上がってきた衣類をそれぞれの名前が付いた箱へ仕分けします。中には難しい読み方もありますが、毎週の活動で少しずつ覚えていくことも楽しみのひとつです。その後、各お部屋の所定の場所へ収めてこの作業は終了です。

次にプレイコーナーの玩具を消毒します。作業を始めると昼食を終えた就学前の子ども達が寄ってきます。手を動かしながらお話をしたり、遊び相手をすることもあります。入院当日泣いていた男の子が、環境に慣れてきたのか、次の活動時には私たちにいたずらをしたり、声を掛けてくれたことがありました。うれしかった出来事のひとつです。

親元を離れて入院生活を送っている子ども達、けなげで明るくリハビリに励んでいる様子に、笑顔で応えてあげたい週1回の訪問です。



行事予定

- 3月 2日 アンディ先生のマジックショー
- 3月 7日 心の絵巻物作り
- 3月 8日 クリニクラウン慰問
- 3月12日 ウルトラマン慰問
- 3月16日 むすび丸慰問（拓桃館）
- 3月17日 まほうの広場コンサート
むすび丸慰問（本館）
- 3月28日 まほうの広場コンサート
- 4月 クリニクラウン慰問

編集後記

今年の冬は、例年に比べ雪が少なく、雪かきいらずの日々でした。3月に入ってから、日差しも明るくなり、穏やかな春の訪れを日ごとに感じるようになりました。

さて、春といえば別れと出会いの季節です。当院でもたくさんの別れが待っています。今回の「いのちの輝き」では、3月31日で退任となる林院長と星野看護部長の挨拶を掲載させていただきました。これまで広報紙「いのちの輝き」の顔として、巻頭言を担当してくださった林院長の最後の巻頭言となります。毎回ユーモアあふれる原稿を執筆くださった林院長に、広報委員一同感謝の気持ちでいっぱいです。

一方で春は、新しい出会いも運んでくれます。次回の広報紙「いのちの輝き」では、新しい院長、看護部長の紹介を交えながら、当院の近況を紹介させていただこうと思います。

この春、たくさんの方々との出会いがあることを楽しみにしています。

（経営企画課 藤本 尚子）

地方独立行政法人 宮城県立こども病院

〒989-3126
宮城県仙台市青葉区落合四丁目3-17
TEL:022-391-5111 FAX:022-391-5118
<http://www.miyagi-children.or.jp/>

広報委員会

委員長	田中 高志	委員	大瀧 ツネヨ	委員	阿部 智	委員	板橋 孝	委員	乾 健彦
広報委員	虻川 大樹	委員	今泉 益栄	委員	岩崎かおり	委員	大塚 有希	委員	小畑 正子
	車田 眞澄	委員	千葉 弥生	委員	櫻井奈津子	委員	高橋 清志	委員	武山 淳二
	星 芳夫	委員	皆川 寛恵	委員	濱町友里恵	委員	原山千穂子	委員	藤本 尚子
		委員		委員	真嶋 智彦	委員	町井 祐輔	委員	三上 静香
		委員		委員	森永 華世	委員	横山麻依子	委員	

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

VEGETABLE
OIL INK

R2100
古紙配合率100%の再生紙を
使用しています。